

小型バギーや重機を活用した救助活動の円滑化

3か年緊急対策

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要: 令和6年能登半島地震では、土砂災害や倒壊家屋などにより悪路環境の中での活動を行う必要があり、人力のみによる活動が困難な場所において、整備した小型バギーを用いた人員搬送や重機を用いた障害物の除去作業等により、救助活動を円滑化した。

対策名: 47 大規模風水害・土砂災害に対応するための緊急消防援助隊に関する緊急対策<3か年緊急対策>【総務省】

実施主体: 総務省消防庁・消防機関

実施場所: 令和6年能登半島地震の被災地(石川県内)

事業概要: 大規模風水害・土砂災害に対応するため、緊急消防援助隊の車両・資機材の整備を行った。

- ・津波・大規模風水害対策車(小型バギー等積載)19台
- ・中型水陸両用車及び搬送車4台
- ・大型水陸両用車及び搬送車1台
- ・重機及び重機搬送車28台
- ・高機能救命ボート50台
- ・映像伝送システム1式
- ・教育訓練用資機材1式

事業費: 全体事業費約44億円

(うち3か年緊急対策による事業費約44億円)

効果: 被災地では、地震による家屋倒壊や土砂崩落が発生し、通常車両では現場に近づくことが難しい現場も多数あった。そのような状況の下、緊急消防援助隊は、小型バギーを用いた泥濘地等での人員・資機材の搬送、重機を用いた重量物等の排除により、効果的な救助活動を実施した。

【能登半島地震の活用実績】



○小型バギーによる活動【大阪府大隊】
※3か年緊急対策により整備したものと同仕様



○重機で土砂排除【大阪府大隊】